



堀田 正人

Masato Hotta
朝日大学 教授
朝日大学PDI岐阜歯科診療所長



勝又 明敏

Akitoshi Katsumata
朝日大学歯学部 教授



二階堂 徹

Toru Nikaido
朝日大学歯学部口腔機能修復学講座
歯科保存学分野歯冠修復学 教授
日本歯科保存学会 理事・専門医・指導医
日本接着歯学会 理事・認定医
日本歯科理工学会
中部支部理事・シニアアドバイザー
学術誌Dental Materials Journal
副編集長
学術誌Journal of Adhesive Dentistry
副編集長

学術と臨床の融合

—臨床医が知りたい専門知識【Professorに聞く】—

Fusion of the Dentistry and the Dental Clinician Practice

-the Specialized Knowledge to Demand a Dental Clinician【Ask a Professor it .】-

日本歯科
医師会認定

朝日大学大学院
歯学研究科連携プログラム

【歯科医師】

WEB配信(ライブ)

【パッケージコース番号:13221900】

■定 員：350名(明海大学・朝日大学出身以外の方も受講できます)

(単コース受講の場合:各50名)

■日 時：2022年10月5日(水)～2022年12月21日(水) 20:00～21:00

■形 式：WEB配信(ライブ)

■受講料：15,000円 (単コース受講の場合:各3,000円)

(入金をもって受講登録とさせていただきますので、予めご了承ください。)

各プログラム

2022年10月5日(水)

【コース番号:13221901】

①『覚えておかなければならないホワイトニングの基礎知識』

講師:堀田 正人

歯が黄白色を示すのは光がエナメル質を透過して下層の象牙質で反射されることによります。歯の切端、中央、歯頸部の色の違いはエナメル質と象牙質の厚さによります。光が象牙質内に到達し、象牙質が厚くなると象牙質からの拡散反射光が増加し、象牙質の黄色味が強くなります。変色した歯をホワイトニングするとエナメル質、象牙質はどのように変化し、どのような色となるのでしょうか?変色した歯は患者一人ひとり異なった形と色をしており、ホワイトニングを行って審美回復するには技能が求められます。また、技能だけでなく、ホワイトニング材料の特徴を熟知する必要があります。したがって、このコースでは使用する材料の特徴を熟知し、習得した知識・技能と融合させたホワイトニングについて解説致します。

【到達目標】

1. ホワイトニングによるエナメル質の色彩学的変化がわかる。
2. ホワイトニングの臨床応用時のポイントがわかる。

2022年10月19日(水)

【コース番号:13221902】

②『歯科用CTによる顎関節の撮影と読影』

講師:勝又 明敏

大学病院などを除いた歯科臨床家が利用可能な顎関節の画像診断は、長い間、パノラマX線撮影のみでした。しかし歯科用CTの普及により、歯科臨床家でも顎関節の精密な画像検査が可能となってきました。

本講演では、歯科用CT装置による顎関節撮影の要点、顎関節を観察する画像の作成と読影の方法、および画像検査結果の臨床へのフィードバックについて解説します。

【到達目標】

1. 歯科用CTによる顎関節撮影の概要を説明できる。
2. 顎関節CT画像の解析法について説明できる。

2022年11月9日(水)

【コース番号:13221903】

③『臨床で差がつく接着材の選び方と勘所』

講師:二階堂 徹

接着修復は直接法・間接法を問わず日々の臨床に広く普及している。確実な接着があつてこそその接着修復であるが、接着材料のライフサイクルは短く、すぐに新製品と置き換わるため、知識と技術のアップデートは大変な作業となっているのが現状である。さらに最近のメタルフリー修復においては、CAD/CAM用ブロックからの削り出しやジルコニアなどが普及しており、被着体に対する接着術式もより複雑化している。このコースでは、臨床における接着材選びのポイントと確実に接着させるための勘所について解説する。

【到達目標】

1. 接着材料の特徴と使用方法のコツがわかる。
2. 歯と歯科材料に対する接着の基礎と臨床での勘所がわかる。

2022年11月16日(水)

【コース番号:13221904】

④『埋伏抜歯の留意点』

講師:住友 伸一郎

抜歯は旧来から歯科・口腔外科の代表的手術であり、なかでも、埋伏智歯の抜去は、歯肉・口腔粘膜の切開、骨膜剥離、歯槽骨の開削、歯の分割、挺子を用いた歯の脱臼操作、病巣の搔把、歯肉・口腔粘膜の縫合といったほぼすべての基本手技を含む手術です。

このコースでは、智歯の抜歯にかかわる基本的手技を再確認するとともに、各手技の注意点を細かく解説します。

【到達目標】

1. 歯肉・口腔粘膜の切開と骨膜剥離を適切に施行できる。
2. 適切な歯槽骨の開削と歯の分割により埋伏智歯を摘出できる。

2022年12月7日(水)

【コース番号:13221905】

⑤『歯周病の新分類を理解しよう!』

講師:辰巳 順一

歯周病の分類は時代とともに変化し、直近では 2017 年末に AAP(アメリカ歯周病学会) と EFP(ヨーロッパ歯周病連合) が中心となり歯周疾患の分類が改変されました。本プレゼンテーションでは、歯周病分類の変遷をまとめ、新分類についてその特徴や注意点について解説します。この新分類は、認定医・専門医の申請や、症例提示の際にも必須となっており、診断に必要な検査項目を含め、事例を通して解説します。

【到達目標】

このプレゼンテーションを終えると、参加者は以下のことができるようになります。

1. 歯周病の新分類 (2017) を説明する。
2. 歯周病の診断に必要な検査、診断について議論する。

2022年12月14日(水)

【コース番号:13221906】

⑥『矯正歯科治療のリスクとベネフィット』

講師:北井 則行

矯正歯科治療を行う場合のベネフィットとして、歯並びと咬み合わせを改善することにより、顔貌が改善することが挙げられます。一方、リスクとしては、歯を移動する際に生じる疼痛、歯根吸収、歯肉退縮および移動した歯の後戻りなどが考えられます。本講演では、矯正歯科治療のリスクとベネフィットを整理し、矯正歯科治療では、どのように歯並び、咬み合わせおよび顔貌が改善するのか、その際、前述のリスク回避のために留意すべきことは何かを解説します。

【到達目標】

永久歯を移動する矯正歯科治療を行う場合のリスクとベネフィットについて理解することを到達目標とします。

2022年12月21日(水)

【コース番号:13221907】

⑦『近未来のインプラント治療』

講師:中本 哲自

歯科治療の中でもインプラント治療はデジタル技術が著しく発展している領域です。しかしながら、完全デジタル化はまだまだ先の話で、現状ではアナログ技術とデジタル技術をうまく使い分ける必要があります。本講演では、インプラント治療におけるデジタル化の現状と本院で新規導入したダイナミックナビゲーションシステムの紹介を通して、デジタル化の現在地と近未来のインプラント治療について解説します。

【到達目標】

1. インプラント治療における口腔内スキャナーの活用法、費用対効果を説明できる。
2. ダイナミックナビゲーションシステムを適用可能な症例について説明できる。

※「学術と臨床の融合臨床医が知りたい専門知識【Professor に聞く】」は、上記①～⑦の7コースで構成されており、パッケージコース(7コースで一括申込み)の場合は、15,000円で受講が可能となっております。



住友 伸一郎
Shinichiro Sumitomo

朝日大学歯学部
口腔病態医学講座
口腔外科学分野教授



辰巳 順一
Junichi Tatsumi

朝日大学歯学部
口腔感染医学講座
歯周病学分野教授
日本歯周病学会専門医・指導医
日本顎咬合学会指導医



北井 則行
Noriyuki Kitai

朝日大学歯学部
口腔構造機能発育学講座
歯科矯正学分野教授



中本 哲自
Tetsuji Nakamoto

朝日大学歯学部
口腔病態医学講座
インプラント学分野教授
日本補綴歯科学会 指導医・専門医
日本口腔インプラント学会 専門医

7 day
CLINICAL
STEP UP
13
COURSE